

平成21年8月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成21年8月の熱中症による全国の救急搬送の状況をとりとまとめたので、その概要を公表します。

1 背景

平成21年8月は、月を通じて太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱かったため、北日本と東日本、西日本の日本海側では日照時間が少なく、気温は、北日本でほぼ平年を下回り、また東日本と西日本では平年並みとなる一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われたため晴れて気温の高い日が多い状況にありました。

これらの状況のため、熱中症による救急搬送人員が昨年と比較して減少したものの、九州地方や沖縄県では前年と比較して増加しているものと思われます。

2 ポイント

- 平成21年8月の全国における総救急搬送人員は408,222人で、そのうち熱中症による救急搬送人員は6,495人（総搬送人員の1.6%）でした。これは、平成20年8月の熱中症による救急搬送人員8,857人（総搬送人員の2.2%）に対し27%の減少となっています。
また、熱中症による救急搬送人員の総救急搬送人員に対する割合について平成21年8月と平成20年8月を比べると、40都道府県で減少しています。
- 熱中症による救急搬送人員の年齢区分（※1）をみると、成人が2,923人（45.0%）と最も多く、次いで高齢者が2,638人（40.6%）になっています。
- 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度（※2）をみると、軽症が最も多く4,100人（63.1%）、次いで中等症2,146人（33%）、重症156人（2.4%）の順となっています。また、死亡は8人（0.1%）報告されています。

※1

新生児：生後28日未満の者
乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
少年：満7歳以上満18歳未満の者
成人：満18歳以上満65歳未満のもの
高齢者：満65歳以上の者

※2

軽症：入院を必要としないもの
中等症：重症または軽症以外もの
重症：3週間の入院加療を必要とするもの
死亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

3 その他

- ・ 下記のHPで熱中症の情報を提供しています。
環境省熱中症情報 (http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/)

【別添資料】

- [平成21年8月の熱中症による救急搬送状況（都道府県別）（別添1）](#)
- [熱中症による救急搬送比率（別添2）](#)
- [平成21年8月の熱中症による救急搬送状況（日別）（別添3）](#)
- [平成21年8月の熱中症による救急搬送状況（年齢、傷病程度別）（別添4）](#)



（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：森田・梅澤・岡山

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539